

《新学年に向けての学習》

残り2か月ほどで現学年の学習が終了し、来年の2月からはいよいよ新学年の学習が始まります。現在学習している内容で、得意な科目と苦手な科目、得意な単元と苦手な単元のような凸凹ができているかと思います。新学年を迎えるにあたり、まずはその凸凹の分析をし、克服すべき課題をお子様に自覚させる必要があります。12月・1月には2学期後半の学習内容のまとめとなるテストが実施されますから、その結果と10月・11月に実施されたテストの結果をもとに、お子様の課題を見つけ、その定着度を確保しておくことが大切です。そして、その課題を克服することこそが冬期の学習の目標ですので、12月に実施される個別面談会で冬期の過ごし方について担当講師に直接ご相談ください。今までの学習内容をまとめ、新学年を良い状態でスタートするための計画・準備を進めていきましょう。

《冬期講習会の位置づけ》

1学期は学期の途中で春期講習会やゴールデンウィークがあり、それまでの学習内容の復習や、未習範囲の先取り学習をする機会がありました。しかし、2学期はどこどころに連休があったものの、カリキュラムは第1回～第16回まで休みなく続きます。復習する機会をなかなか持てず、未消化のままで先に進まざるを得なかった単元もあるはずです。冬期講習会では、このような積み残した内容をしっかりと固めていくことが最も大切になります。らせん型になっている四谷大塚のカリキュラムでは、先々に勉強する内容は、現在の学習内容の応用・発展にあたります。まずはしっかりと土台を固め、定着度の向上を図りましょう。

《小5 年末年始は正月特訓》

もうすぐ受験学年を迎える5年生は12月30日、1月2日・3日の3日間に正月特訓を実施します。多くの塾がお休みになる期間に集中して学習することで、受験へ向けた意識を高め、新たな気持ちで新年の学習をスタートさせます。

《今後の予定》

■ 組分けテスト

第8回 組分けテスト 12月14日(日)

第9回 組分けテスト 1月25日(日)

■ その他

学校別ジュニアオープン模試 12月7日(日)

志望校判定テスト 1月12日(月祝)

12月中に進めておきたい学習内容

〔国語〕

国語については、現在学習している内容以上のものに無理に取り組む必要はありません。言語知識において、お子様にとってなじみのない単元が続いていますので、1週間の中で繰り返し触れる時間を設けられると良いでしょう。

〔理科〕

電流の計算問題は繰り返し演習して身につけておきたいところです。『予習シリーズ』・『練成問題集』・『演習問題集』などを見直し、やり残しや苦手を感じているところがあれば、この機会に取り組んでおきましょう。

〔算数〕

小5の終盤に学習する内容は、これまで以上に難度の高いものが多く含まれます。1月末の組分けテストに向けて、冬期講習会を含め、十分な対策の時間をとれるので、基礎からじっくりと復習しておきましょう。

〔社会〕

歴史の学習ではこれまで以上に整理していくことが大切です。『予習シリーズ』の要点チェックや『演習問題集』の「まとめてみよう!」を中心に、「誰が何をしたのか」「いつ何がおこったのか」を整理していきましょう。

12月の学習内容とポイント

第14回	説明文・論説文(9) 主張と根拠 文と文の関係② 接続関係2/対義語
第15回	総合
第16回	物語・小説(11) 物語・小説の読解総復習 文と文の関係③ 因果関係/故事成語
第17回	説明文・論説文(10) 説明文・論説文の読解総復習 文と文の関係④ 抽象と具体/四季の言葉(秋・冬)

文章読解では、総合回後に「物語・小説」「説明文・論説文」の総復習に入ります。各文種の「読み方」を振り返り、自分なりの読み方を確立しましょう。また、言語知識の「理解が中心の単元」では、引き続き「接続関係」に関する単元が続きます。読解力にもつながる大事な視点を学びます。『漢字とことば』の「語彙を広げる単元」については、学習機会が少ない単元である「故事成語」が登場します。この機会にできる限り身につけましょう。

【学習のポイント】

文章読解：文種別の読み方を定着させる

文章読解では、ここまで繰り返し「文種別の読み方」という切り口で学習を続けてきました。例えば、「物語・小説」ならば「場面を正確におさえ、その分かれ目で線を引く」「出来事⇒気持ち⇒心情という論理的な流れで心情を読み取る」「文章全体での心情変化をとらえながら、主題に迫る」といった読み方は定着しているでしょうか。どんな作品に出会っても、一貫した読み方で処理することが、安定した得点力へとつながります。受験学年となる小6を前に、今一度、文種別に総復習をかけ、「自分なりの読み方」を確立しましょう。



第14回	電流と抵抗
第15回	総合
第16回	電流と磁界

14回の「電流と抵抗」と16回の「電流と磁界」では、総合回を挟んで物理分野の電流に関して学習します。

「電流と抵抗」では、電池や豆電球のつなぎ方と回路に流れる電流の大きさや電気抵抗との関係について整理し、電熱線による発熱量の計算の練習をします。

「電流と磁界」では、導線の周りに生じる磁界や電磁石のはたらきを理解することが重要です。また、ブザーやモータの仕組みに関しても確認が必要です。電流の単元は入試に頻出ですので、苦手意識を持たれないように工夫しながら指導してまいります。

【学習のポイント】

データを利用した問題に強くなろう！

今回の電流の単元もそうですが、理科では表やグラフを読み取って計算する問題が出題されます。このようなデータを利用して解く問題は中学入試では頻出です。様々な問題に積極的に取り組んでマスターしましょう。データの読み取りに強いことは、中学入試の際に大きな武器になります。



第14回	立方体・直方体の切断
第15回	総合
第16回	濃さと比
第17回	いろいろな立体の求積

12月は、「立方体・直方体の切断」と「濃さと比」を学習します。立体の切断は中学入試頻出のテーマにして、難度も高いものです。切断の手順を理解し、自ら作図できるようにしっかりと練習を行います。食塩水の問題は小5の1学期にも学習していますが、当時は未学習であった比が絡みます。速さや面積・体積でも比を扱ったように、食塩水の問題においては、「食塩水の重さの比×濃さの比＝食塩の重さの比」が成り立ちます。てんびんや面積図など、便利な解法がある一方で、この3量比の関係こそが問題を解く鍵となる場合はよくあります。食塩水の問題の復習とともに、比の関係もしっかりと理解しましょう。

【学習のポイント】

体積比を使いこなそう

「立方体・直方体の切断」において、切断した後に体積を求める際には、体積比を利用することがポイントになります。体積を求める場合、大きな三角錐の体積から複数の小さな三角錐の体積を引くといった計算を多く行うことになっていきますが、その際にすべての辺の長さを一つ一つ求めていては、途中で計算ミスをする可能性があります。したがって、比を用いてできる限り計算量を減らすような工夫を身につけることが大切です。



第14回	明治時代(1)
第15回	総合
第16回	明治時代(2)

12月は「明治時代」を学習します。「明治時代(1)」で学習する、明治維新はめまぐるしく改革が進みます。例えば「版籍奉還」⇒「廃藩置県」⇒「岩倉使節団」とつながっているように、単に用語の暗記をするだけではなく流れとして学習を進められるように授業を展開していきます。また1872年に「鉄道開通」「富岡製糸場操業開始」「学制発布」があったように、同じ年に複数の重要事項が出てくるのも近現代史の特色です。歴史の学習がより複雑になりますので、丁寧に学習できるよう指導いたします。「明治時代(2)」は条約改正と日清・日露戦争がポイントです。国際関係も複雑になりますので、この面でも注意が必要な単元です。

【学習のポイント】

近現代は歴史の範囲が広がります！

近世までは、外交史といえば中国・朝鮮半島くらいでした。しかし、近現代史となると欧米諸国が日本史の舞台にさかんに出てきます。しかも外交は複雑です。日露戦争までは、イギリスとロシアは対立関係でしたが、戦争後はイギリス・フランス・ロシアで協定を結びます。歴史の学習もこのように変化の激しい時代の学習に突入しました。より丁寧な学習を心がけましょう。

